

堺のヒト・モノ・世界をつなぐ

堺IPC

SAKAI CITY INDUSTRIAL PROMOTION CENTER
www.sakai-ipc.jp

PRESS



●特集

成長する

「健康関連市場」への挑戦

株式会社武田晒工場 / 株式会社幸和製作所 / 株式会社サクラ歯研

●モノダン×モノジョ 8

いくらでも工夫の甲斐がある
ものづくりに面白さを覚えて。
株式会社吉持製作所 吉持 憲さん

●さかいモノ語り 11

全国各地の素材が生きるクッキー
株式会社グランディーユ

2017.4
VOL.

43



case
01

次代の和晒を見据えて
自社製品の開発を

晒し工程を請け負う加工業者として、1911年に創業。最近では、トイレットロールタオルやシームレス布おむつ、安産祈願腹帯などの製品も製造していたが、自社ブランドは「天使のころも」が初めて。今後は、ベビー用品に限らず、敏感肌や自然派志向の女性たちをターゲットに製品ラインナップを拡充していきたい考えだ。

和晒のやさしきでベビー肌着

株式会社武田晒工場 代表取締役 武田清孝

「健康的な暮らし」への関心は年々高まっており、ヘルスケア関連市場は不況に強いといわれています。その一方で、身体に「安全、安心、快適」を謳っているからこそ、選ぶ消費者の目がより厳しさを増しており、確かな技術力が求められるといえるでしょう。自社の強みを発揮して、ヘルスケア関連事業で活躍される3社に取材しました。

自社の強みとして 抗菌加工やECO晒を開発

堺の伝統産業である和晒を長く守ってきた武田晒工場は創業106年。現在の武田清孝社長で4代目を数えます。かつて、堺で盛んだった和晒は、布巾や赤ちゃんのおしめなど、日用品としての需要が激減し、最盛期には40軒ほどあったとされる加工業者も今では7軒だそうです。

大学で情報工学を専攻した武田社長は、卒業後に入社した家電メーカーで、最新家電の電子プログラムの開発設計などを行っていました。1989年に家業の武田晒工場に入社。まず、全ての工程で人がかかりつきりになっている超アナログな現場に驚いたといいます。

「こんなことではいけないと、すぐに製造現場にコンピュータを導入。それによって品質の安定と省力化を図ることができました。さらに自社の強みを作ろう

と、家電メーカー時代に開発に関わった抗菌技術を活かして銀イオン加工などをオプションで手がけるようになったのです」と語る武田社長。

次に挑んだのは、環境にやさしい和晒でした。化成ソーダなどの強力な薬剤を一切用いず、身体に配慮した薬剤を量を最小限に減らして使用した結果、純白にはなりませんでしたが、染色には何ら問題はないということがわかりました。こうして誕生した同社独自の加工法「Eco晒」こそが、次に踏み出す足がかりとなったのです。

先染めした糸で織る二重ガーゼ 色落ちせず肌によさしい生地に

晒加工業もこれからの時代に生き残るには、自社ブランドを立ち上げるべきだと考えていた武田社長。そんなある日、二重ガーゼのことを知り、「Eco晒」で加工してみると、柔らかく仕上がりが、そこから肌着を思いついたといいます。しかし、商品展開するのに無地だけというわけにはいかず、かといって染色すれば、染料が肌に触れたり、洗った最初に色落ちするなどの問題がありました。

「そこで考えたのが、織る前の糸の段階で先染めする方法でした。通常の工程を入れ替え、最初に染め、最後に晒すことで、色落ちしない生地づくりが成功したのです。しかも色糸を使うの

は、肌に接しない表側だけとしました」。

さて、これをどう製品化するかというタイミングで、武田社長に一つの出会いはありました。2012年に、若手クリエイターを対象に伝統産業を紹介するセミナーの講師に招かれ、そこでアパレル業界に詳しい女性クリエイターと知り合ったのです。敏感な肌にも安心な生地ということで、ベビー肌着ブランドを立ち上げることにしました。子どもの健康のためにはコストを惜しまず、良質のものを求める市場の傾向があることも、武田社長の考えるブランド戦略に合致するところでした。

洗えば洗うほど柔らかい和晒で ベビー肌着ブランドを展開

「天使のころも」と名付けたベビー肌着ブランドを、さつそく2013年の「東京国際ギフトショー」に出展することを決めたことから、製品づくりはもちろん、ロゴやパッケージの作成なども急ピッチで進められたといいます。その後24ヶ月までのベビー用品にはホルムアルデヒド検査がより厳しいことや、赤ちゃんの肌に刺激を与えないように縫い目は表側に出すことも初めて知ったとか。

そうして苦勞して送り出した「天使のころも」ブランドは、昨年東京で行ったテストマーケティングでも好評を博し、和晒の技術を活かした肌によさしい生地

の可能性を実感したといいます。

「洋晒は生地にストレスをかけるため、繊維をつぶしてしまいうのに対し、和晒は生地を動かさないで、糸は丸いまま。和晒が洗えば洗うほど柔らかくなるのは、繊維が綿に近づくからなんです。この和晒の良さをもっと広く知っていただきたい。そのために、『天使のころも』ブランドのラインナップの充実とともに、素材として生地の販売も行います。すでにOEMでパジャマが商品化されていますし、弊社でもこれからホームウェアへの展開も考えているところです」と武田社長。和晒の肌へのやさしさや通気性・吸水性の高さなどは、健康ニーズに配慮するものとして、今後ますます期待されます。

和晒の魅力をもっと広く伝えたい 2020年の東京五輪でもアピールできれば

かつては各家庭に反巻きの晒が常備され、布巾や手ぬぐいとさまざまに活用されていた和晒。「ガーデニングでも、晒は土の上に置けば雑草予防になり、保湿・保水の役割も果たします。そのまま放置して朽ちても、自然素材ですから土に還りますしね」と武田社長。日本伝統のすばらしい技術として、2020年の東京オリンピックでは染染の浴衣を着てお迎えをしてほしいかなと語っていました。



株式会社武田晒工場



◀ベビー肌着で使用されている二重ガーゼの生地も販売。好きなサイズにカットして赤ちゃんのお尻ふきなど自由に使える。

代表者名／代表取締役 武田 清孝
本社／堺市中区毛穴町197-2
TEL／072-271-0504
設立／1911年創業 1962年設立
資本金／1,000万円
従業員数／20名
事業内容／綿織物（小巾、広巾、ロールタオル）の精練・晒加工、
繊維製品の製造・加工・販売
<http://www.takeda-sarashi.jp/>



case
02

シルバーカーを発端に
福祉用具の総合メーカーへ

2007年の「TacaoF」ブランドの立ち上げとともに、毎年10～20アイテムずつ製品ラインナップを充実させてきた幸和製作所。長年に積み重ねてきた信頼から、ヒット商品が出る確率も高い。この10年で売上は約3倍、社員数は連結で約8倍。ただいま、急成長中の企業である。

シルバーカーにロボットを搭載

株式会社幸和製作所 代表取締役社長 玉田秀明

**40年以上前に
高齢者用歩行補助車に着眼**

玉田栄一現会長が乳母車の製造・販売で創業したのが1965年。その5年後の1970年には、今日のように高齢者の用品という市場が確立されていないなかで、国内初のシルバーカーの製造販売を開始しています。そのきっかけは、営業に出かけた先で、杖代わりに乳母車を押している高齢者を見かけたことでした。空っぽの車では前輪が浮くため石を乗せているのを見て、高齢者のための杖車を作ろうと思いついたのだとか。発売後しばらくは、シルバーカー自体が認知されていないことから、販路の開拓に苦労したようですが、今ではすっかり社会に浸透しています。

シルバーカーの製造販売が主事業だった幸和製作所が大きな転機を迎えたのは、2005年、新社長に就任した玉田秀明社長が、これからは福祉用具の総合メーカーを目指すという目標を掲げたことでした。「これがあつたから、一人でできるようになった」「今までより暮らしが快適になった」と高齢者の生活改善に役立つものづくりを追求していきたいと、2007年には、自社ブランド「TacaoF(テイコフ)」を立ち上げ、「歩行」だけでなく、「入浴」「排泄」「食事」「睡眠」などさまざまな生活シーンで高齢者や介護者に役立つ福祉用品を展開しています。

5年がかりで開発された ロボット歩行車に高評価

ブランドの立ち上げから10年足らずで、現在の取り扱いアイテム数は約200。玉田社長は「製品開発担当の社員は約20名。弊社の企業規模からすれば、かなり多いでしょう。さらに、高齢者や介護・介助者の大変さを肌身で理解してもらおうと、全社員を高齢者施設などにボランティアとして派遣しており、現場で不便に感じていることの解決方法を模索するなかで、新製品のアイデアが見つかるんです」と語っています。

そうしたなかで今、国や大学、福祉施設などから大変注目されているのは、一昨年に業界で初めて開発されたロボット歩行車「リトルキーパス」です。大きな特長はまず、坂道での歩行サポート。上り坂ではオートアシストで楽に上がることができ、下り坂では自動的にスピードを制御します。また、坂道を横断する時には、左右のタイヤが同速度で回転するように制御され、下り側へ車体が横流れるのを防止します。さらに、使用者がバランスを崩しそうになった時にも、センサーによってブレーキが自動的に働き、転倒を防止するというのもです。

進行方向に推進させる力と、真逆の制御する力の両方を、瞬時に歩行車に判断させなければならない点が、電動アシスト自転車とは異なっている点だっ

たとか。その他に傾斜を検知するセンサーやモーターの取り付けについても、使用者の邪魔にならず、しかも段差があってもぶつかることのない位置を見極めるのに苦労されたといいます。

その安全性、有用性が評価され、昨年3月に、ロボット技術を搭載した福祉用具では初めて介護保険が適用されたほか、10月には経済産業省と一般社団法人日本機械工業連合会が主催する「第7回ロボット大賞」で、最優秀中小・ベンチャー企業賞を受賞しています。

製造過程から厳しい品質管理 リスクを限りなくゼロへ

初代リトルキーパスは、アシストが必要になり必要な高齢者を想定して製作されたために大きなモーターとバッテリーが必要で、車体も大きなものとなりました。現場の評価が高まる一方で、もっと扱いやすく購入しやすいものという要望も多く、わずか1年でロボット部分の小型・軽量化に成功。重量が10kgを下回る「リトルキーパスS」を昨年10月に新発売しています。

高齢者が使用する福祉用具で自社ブランドを展開することは、一方で製品に対する責任もより大きいということです。同社では最終製品の検査だけでなく、開発や部品の設計など、製造工程から厳しい品質管理を実施しているそう

です。また、リスク管理については透明性を高めるためと、ガバナンスを効かせるために社内リスク管理委員会を設置しており、少しでもリスクがあれば委員会の審議にかけています。「製品への信頼というのには一朝一夕で作られるものではなく、想定されるリスクにどう対応すべきか、長年に積み重ねてきたデータやノウハウは弊社の強みだと思っています」と玉田社長。製品につけられている「TacaoF」のロゴは、同社が約束する「安全・安心」、そして信頼の証となっています。

「TacaoF」ブランドを海外へ 介護用品の市場を作っていく。

「介護保険のない国では、福祉用具は障害者用がほとんどで高齢者用という認識がない」と玉田社長。日本でも2000年に介護保険が導入される前は、高齢者用品の市場は確立されていなかったといいます。今後は、介護保険が導入されている韓国や導入予定の台湾を中心に、東南アジアで積極的に販路を開拓していく考えの玉田社長。「介護用品を使う文化づくりから担っていきたい」と意気込みを語っていました。



株式会社幸和製作所



▶ 前モデルの約60%という軽量化に成功した「リトルキーパスS」。車体も本体幅47.5cmとスリム。



代表者名／代表取締役社長 玉田秀明
本社／堺市堺区海山町3-159-1
TEL／072-238-0459 (代)
設立／1965年創業 1987年設立
資本金／1億7,867万75円
従業員数／連結502名 (国内126名)
事業内容／歩行車、歩行器、シルバーカー、車いす、杖、靴、入浴用品、食事・健康関連、床周り・衣類関連、排泄関連の製造および販売全般
<http://www.tacao.co.jp/>



case
03

10年先を見据えた
最新の歯科技工を追求

1985年創業。50人の歯科技工士を抱えて、堺市内でも最大規模の歯科技工所。歯科医療業界全体の将来を見据えて、最新のシステムや設備を積極的に導入してきた。あわせて、人材育成にも定評があり、歯科医院からの信頼も厚い。



「脱メタル」の歯科技工へ

株式会社サクラ歯研 代表取締役 越智 章

半世紀変わる「脱メタル」の歯科技工

虫歯や歯周病などで失われた歯の形や機能を回復させるためのクラウンやブリッジ、入れ歯など補綴物を製作するのが歯科技工所です。その補綴物についても、使用する材料などによって、保険適用と適用外（自由診療）があります。保険の適用されるクラウンなどの製作物はほとんど、金銀パラジウム合金が使用されており、その材料も技工手法もこの50年余り、ほとんど変わっていません。そうしたなか、審美性を追求する非メタルの補綴物については、材料をはじめ、技法についてもますます進化しているとか。40名の歯科技工士を擁する株式会社サクラ歯研は、将来を見据え、業界に先行して、「脱メタル」「脱貴金属」を進めてきました。

「金銀パラジウム合金が半世紀も変わりにくく使われたのには、強度や加工のしやすさといった優位性があったからで、歯科医師の先生の間でもまだまだ、技工士の手で加工する金銀パラジウム合金への信頼が大きいようです。しかし、今日の歯科技工業界をとりまく、貴金属の価格の高騰、金属アレルギーへの対応、審美性のニーズの高まりといった流れから、新しい材料を積極的に取り入れ、進化させていかなければ、技工士の地位向上にもつながらないと考えています」と越智章社長。サクラ歯研が目指す「脱メ

タル」「脱貴金属」とは、金属アレルギー対策というほかでは、治療などの実用性と直接関係しませんが、生活の質を高める高付加価値型ものづくりだといえるでしょう。

期待される CAD/CAMシステム

非金属の材料で、最近、自由診療でよく使われるようになったジルコニアは、従来のセラミックに比べて強度があり、さらに光を通すので自然に見えるのが特徴です。越智社長は、十数年前に参加した研修会で初めて紹介されたといいます。そして、このジルコニアの技工に、CAD/CAMが不可欠です。

CAD/CAMシステムとは、患者の石膏の歯型をもとに歯科技工士の手作業で補綴物を作る従来のアナログ技工に対し、石膏の歯型をスキャニングし、CADで補綴物を設計、CAMで機械加工する技工です。サクラ歯研ではいち早く導入したものの、13〜14年前までは、国内の設備で技工が完結できず、スウェーデンまでデータを送っていたこともあったといいます。

「委託される業務の90%が保険適用の補綴物ですが、3年前から小白歯へのCAD/CAM冠かんに保険が適用されることになりました。他社に若干先駆けてCAD/CAMシステムを導入していたので、すでに扱いにも慣れていましたし、

すぐに対応できたのはよかったですね。見た目にも美しい非金属の補綴物が、今後大白歯などにも保険適用が認められてくればと期待しています」と越智社長は語っています。

審美性に高い非金属材料を よりリーズナブルに

そして、歯科医療ではますますデジタル化が進む傾向にあります。驚くのは、歯科医師が治療現場で患者の口腔内をスキャンしてデジタルインプレッション（印象）を作製し、そのまま治療時間内に補綴物を製作してしまうということが実現されていることです。

「この動きが広がれば、我々歯科技工士はいかにして生き残っていくかという問題になります。当社としては、そのデジタルインプレッションをデータで送っていただいて技工を請け負うという形で取り込んでいきたいと考えており、すでに歯科医院のご協力を得て、モニタリングを進めつつあります。CAD/CAMシステムに一歩先んじてきたことを、この機会に弊社の強みにしていきたいですね」と越智社長。

今後は、これまで自由診療で9万、10万円とかかっていたジルコニアなどの補綴物を、製作効率を高めることでよりリーズナブルに提供し、「脱金属」「脱貴金属」を広めていけたらと抱負を語っていました。

今回の3社の事業だけを見ても、「ヘルスケア関連事業」の間口は広く、奥は深いのだと実感します。健康を求めない消費者はいないと言っても過言ではありません。そして、「からだにやさしい」ということは、ひいては「心のやさしさ」、つまり気持ちの豊かさにもつながります。

自社の技術や製品を「人にやさしい」という観点から見つめ直せば、新たなビジネスのヒントが生まれるのではないだろうか。

どれだけシステム、設備が進化しても 歯科技工士の基本はアナログ技工

一つの型から補綴物を作るまでにはたくさんの工程があり、分業制を採っている歯科技工所も少なくないそうですが、サクラ歯研では、約2年がかりでアナログ技工の全行程を習得させるのだとか。越智社長は「全行程をしっかり習得して初めて、歯科技工というものが理解できると考えています。どれだけシステムが進化しようと、基本はアナログ技工。それが歯科技工業界全体のレベルアップにつながると思います」と語っています。



株式会社サクラ歯研



◀ 不自然なほど真っ白だったセラミックなどに代わって、自然な色が表現できるようになったジルコニア

代表者名／代表取締役 越智 章
本社／堺市北区北長尾町8-1-23 すばるビル内
TEL／072-254-0026
設立／1985年創業 2000年設立
資本金／300万円
従業員数／50名
事業内容／歯科医療用補綴物の製作
<http://www.sakura-labo.com/>

次代につなぐ 堺の伝統産業 ④

こいのぼり 「鯉幟」

五月の空に悠々と泳ぐ鯉幟。今や、伝統的な手描きの鯉幟を守り続けているのは、全国で唯一、堺五月鯉幟「高儀」だけとなりました。鯉の立体的な表現やその背中にまたがる金太郎など、特徴ある高儀の鯉幟にはファンも多く、今年も全国から注文が寄せられています。

紙鯉から発展して綿布製の鯉幟へ
堺の和晒の技術にも支えられて。

江戸末期の創業という歴史ある堺五月鯉幟「高儀」。もとは墨や筆、和紙などを扱う玩具商だったのが、明治時代に入って、初代・高田儀三郎が名古屋で見かけた紙の鯉を、和紙職人に作らせたのが堺鯉幟の最初だといいます。

やがて、明治時代中期にイギリスで広幅の織機が発明されると、海外との貿易が盛んだった堺にいち早く広幅の綿布が輸入され、高儀の紙鯉も綿布の鯉幟に代わりました。「堺で鯉幟製作が発展したのは、広幅の綿布がいち早く入手できたことのほかに、注染の盛んな土地なので、広幅の綿布を晒す加工技術が地元にあったからです。当時、羽二重のように軽く良質の綿布は大変高価なものでしたが、高儀の鯉幟はこれにこだわり、広幅であることを活かして太い胴を持つ立体的な鯉を表現しました。尾びれの根元をくびれさせることで、大きな口から入った風が胴体をふくらませ、より堂々と見せています」と高儀の6代目・高田武史さん。背中にまたがる金太郎も高儀オリジナルの意匠で、親より出世するようという願いから、足の指は親指よりもその隣の指が長く描かれているそうです。

健やかな成長を願って鯉幟を
購入された方が、大きくなった
子どもを連れて訪ねてくれる
こともあり、それがとても嬉しい
と高田さん。



▲手描きならではの美しく、勢いある表現は、二度描き、なぞり描きの許されない真剣勝負から生まれている。

舶来物顔料の鮮やかな色と
ぼかしの技法が手描きならではの魅力。

綿布に直に手描きする職人は年々減り、ついに昨年、高儀が最後の一軒となりました。高儀で代々こだわってきたのは、染色では表現できない鮮やかな黒と赤、白の原色の表現と、手描きならではの勢いのあるヒゲや繊細なぼかしの技法。そのために古くは奈良の削り墨や丹と呼ばれる赤色顔料を使用したほか、今では外国製の顔料を取り入れ、筆や刷毛は京都の老舗に特注したものです。

以前は4～5mの鯉幟が売れ筋で、最大で9m、10mといった大きな鯉幟も作られていましたが、今では住宅事情も変化し、首都圏では屋内に飾る鯉幟に人気があるのだとか。高儀でも現代のライフスタイルにあわせて、掛け軸や額絵、置物なども製作していますが、大空に泳ぐ伝統的な鯉幟づくりを途絶えさせまいと、娘の恵さんが7代目として、次代の手描き鯉幟づくりを担われるそうです。



◀住宅事情からか、大都市圏では、家の中で楽しむ置物タイプも人気。

取材協力

堺五月鯉幟「高儀」
堺市西区浜寺船尾町東3-413

☎072-263-2205

<http://www.f6.dion.ne.jp/~may5day/>



6代目 高田武史さん

👑 ものを作る、明日を創る。

モノダン × モノジョ

堺市内で活躍する若手社員『モノダン(ものづくり男子)×モノジョ(ものづくり女子)』を毎号ご紹介します。



いくらでも工夫の甲斐がある ものづくりに面白さを覚えて。

「当初は家業を継ぐ気はなかったんですよ」と語るのは、吉持憲取締役。幼い頃は自宅と工場がそばで、父である吉持一始社長が働く姿を当たり前風景として見て育ったといいます。高校生の時に、アルバイトで工場の手伝いをした時は「責任のない単調な作業がつまらなく思えた」のだとか。全く違う仕事をしたいと、学校卒業後に就職したのはホームセンターでした。

その吉持取締役が吉持製作所に入社したのは2008年。社長が体調を崩し、同じ時期に九州への異動話が出たことがきっかけでした。現在は現場の仕事から経理、営業と会社の業務全般を担っています。

「責任ある立場で携わってみると、弊社が独自に磨き上げた他社に負けない技術などを、すごいなと改めて見直すことも多く、同じ機械を使っているもやり方一つで、全く違ったものができることにものづくりの魅力を感じるようになりました」と吉持取締役。今では、得意先との打合せで加工方法の提案を行うこともあり、どれだけ工夫し続けても、これでよしというものがないことがとても面白いそうです。

「高品質にこだわる日本のものづくりは世界に誇れるものです。それを自分たちの世代も守り継いでいかなければと思いますね」と語っています。



👤 取締役 吉持 憲さん

昨年には堺市産業振興センターの「ものづくり経営大学」を受講。次代を担う立場で、「自社の強みとなるものづくりができるなら新しい機械も導入していきたいし、将来的には自社製品も」という抱負を持つ。若い世代のものづくり離れについては「やってみれば面白いのに、食わず嫌いでではもったいない」と語る。



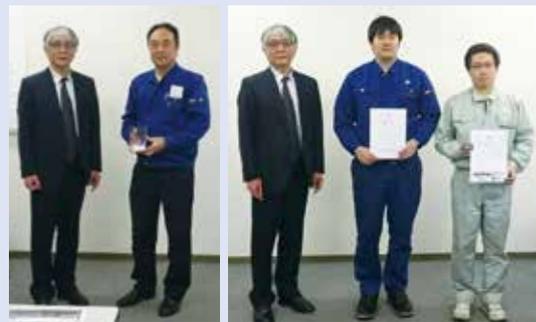
株式会社吉持製作所

1960年にアルミ製品の加工業として創業。現在は住宅設備関連や道路用品などのアルミ製品の委託加工を担っている。同社が強みとするのは難度の高い絞り加工で、円筒形のアルミニウムから写真のサンプル製品のような形状のものを一体成型する。全くつなぎ目がないため、耐久性が高まるほか、見た目美しく、さらにコストの低減を図られることがメリット。本社／堺市西区浜寺船尾町東 2-275
TEL.072-265-2566

技能承継実践塾は、3つのSTEPで昨今の中小製造業において課題とされている技能・技術・ノウハウの承継の仕組みの構築を支援すると共に、ものづくり現場のマネジメント人材の養成を図る講座です。

STEP3では、10月～3月の6ヶ月間STEP1、2で学んだ技能承継の手法をベースに、オリジナルカリキュラム（裏面STEP3想定カリキュラム参照）に沿って、企業独自の技能承継の仕組み創りをおこなってきました。

今回は、その取り組みを修了された村上精機株式会社様の修了式及び堺技術・技能承継モデル企業の認定式をとり行い、併せてSTEP3での取り組み内容とその成果について発表いただきました。



*平成29年3月16日(木)、成果発表された修了式の風景

お問合せ先 公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課
TEL 072-255-6700 / メール keiei_shien@sakai-ipc.jp

さかい健康医療ものづくり研究会 [参加募集](#)

堺市内の中小企業からの健康・医療・介護分野への参入に関する相談について、医工連携コーディネーターが応じ、相談内容に適した支援をコーディネートするとともに、そのプロセスに対し『さかい版 伴走支援』によりサポートいたします。

対象となる方 健康・医療・介護の分野へ参入を希望する（参入している）堺市の中小企業者

公募開始時期 平成29年4月

参加方法 所定の申込書に記載のうえ事務局に提出。

研究会活動

- **マネジメント・リソース・シートの活用**
研究・開発に有効な医療・介護分野でのビジネスマッチングのシーズ提案に活用する他、会員企業登録資料とします。
- **外部講師を招いての研究会の開催**
医療・介護分野の現場で活躍されている方を招いてのワークショップを開催します。
- **先進事例研究（見学会などの開催）**
新規参入事例やクラスターによる商品開発事例を取り上げ研究会を開催。あわせて、先進事例の見学会を企画・開催します。
- **クラスターの形成によるチームでの取り組みの加速**
上記の活動により明確になった『参入ニーズ』により、適切な研究・開発の連携を支援します。
- **他の支援機関との連携や支援制度利用のコーディネート**
必要に応じ、他の制度の利用や連携を支援します。



平成29年1月開催のワークショップの様子

事務局 公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課 医工連携促進事業担当
TEL 072-255-6700 / メール keiei_shien@sakai-ipc.jp / URL <http://www.sakai-ipc.jp/>

平成29年度 堺市中小企業融資制度のご案内

◎より低利率の融資枠を設定!! ～創業者支援資金融資・中小企業活力強化資金融資～

平成29年度から、成長産業分野やIoT/IT技術の導入にかかる設備投資を行う場合は、通常利率年1.4%のところ、**特別利率年1.0%**で融資します。

※詳しくは、堺市のホームページをご覧ください。堺市産業振興センターまでお問い合わせください。

お問合せ・申込先 公益財団法人堺市産業振興センター 金融支援課
〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5
TEL 072-255-8484 / FAX 072-255-5162
(融資お客様専用ダイヤル) フリーダイヤル 0120-072-232
堺市HPアドレス: <http://www.city.sakai.lg.jp/> から「堺市中小企業融資制度」で検索してください

○ものづくり新事業チャレンジ支援補助金

新たなものづくりに必要な費用の一部を補助します。

■補助対象者 市内で引き続き1年以上事業を行っている中小企業

■補助内容

【特定技術開発テーマ枠】(採択件数：1件/年)

堺市が指定したテーマに沿い、公設試験研究機関、大学、大企業等の外部技術を活用して行う研究開発が対象

期間…2年 補助率…補助対象経費の2/3以内

補助上限額…2,000万円

【一般枠】

期間…1年 補助率…補助対象経費の2/3以内

補助上限額…500万円

■募集期間 平成29年5月1日～31日(予定)

■問合せ 堺市ものづくり支援課

TEL:072-228-7534 FAX:072-228-8816

○市税優遇制度(ものづくり投資促進条例)

市内の工場等の新增築、建替え等で一定条件を満たす場合に市税を最長5年間軽減します。

■対象業種 製造業(植物工場を含む)、電気・ガス・熱供給業(新エネ関連)、情報通信業、運輸業、学術・開発研究機関

■対象地域 工業専用地域、工業地域、準工業地域

■軽減税目 固定資産税(家屋・償却資産)・都市計画税(家屋)・事業所税(資産割)

■優遇措置

投下固定資産額(土地を除く)1億円以上(大企業は10億円以上)の場合、1/2軽減

※ただし、土地取得など一定の要件を満たす場合、最大3/4軽減

■問合せ 堺市産業政策課

TEL:072-228-7629 FAX:072-228-8816

○中小企業研究開発機能強化支援補助金

研究開発の機能強化のために施設整備及び設備導入を実施する際、一定の条件を満たす場合に費用の一部を補助します。

■対象者 製造業を営む中小企業

■補助金額 補助対象経費の10%以内(補助上限額1億円)

■補助対象事業 研究開発のため、施設の建築(新增築、建替え、改良)と併せて設備を取得(最低投資額1,000万円)

■問合せ 堺市産業政策課

TEL:072-228-7629 FAX:072-228-8816

○中小企業操業環境改善支援補助金

工場の操業環境を改善するための防音・防振工事または移転に係る一定の条件を満たす場合に、費用の一部を補助します。

■対象者 製造業を営む中小企業

■補助金額 補助対象経費(50万円以上)の1/2以内(補助上限額500万円)

■補助要件

防音・防振工事	工業地域、準工業地域等に立地する工場で、 ○騒音・振動に係る苦情を受けていること ○苦情を和らげるため、自ら対策を行っていること(行う計画があること) ○工場の敷地境界線から半径概ね50m以内に住宅があること
移 転	非工業系用途地域から工業専用地域、工業地域、準工業地域等への工場の移転であること

■問合せ 堺市産業政策課

TEL:072-228-7629 FAX:072-228-8816

○スマートファクトリー・スマートオフィス導入支援事業補助金(先着順 15件程度)

デマンド監視装置等を設置等していることを条件に、所定の省エネ設備(ボイラ、変圧器、コンプレッサ等)を1種類以上導入する際、導入費用の一部を支援します。(原則、LED照明・高効率空調は対象外。)

■補助対象者 市内事業者(風俗営業等除く)及びリース事業者

■補助対象事業所 年間のエネルギー使用量が1,500kℓ未満で自家用電気工作物を設置し受電している市内事業所

■補助対象事業・補助内容

補助対象経費(設備費)が30万円を超える事業であること。補助額は対象経費の1/3以内(業務用燃料電池の場合は1/2以内)で上限額は以下のとおり。

事業所全体のエネルギー使用量又は温室効果ガス削減量又は最大需要電力を、5%又は5t-CO₂/年又は5%削減する場合は、上限200万円。事業所全体のエネルギー使用量又は温室効果ガス削減量又は最大需要電力を、2.5%又は2.5t-CO₂/年又は2.5%削減する場合は、上限100万円。

■申請期間

平成29年5月8日～平成29年12月6日(ただし、予算額に達し次第、終了)

※コンプレッサの更新を考えている方は併せて「空気圧縮機・省エネアドバイザー派遣事業(無料)」をご検討ください。今お使いのコンプレッサの負荷率等を計測し、運用改善や設備更新による省エネ効果を試算します。また、夏季又は冬季にデマンド監視装置を設置する「省エネ・節電アドバイザー派遣事業(無料)」も活用ください。デマンドの発生要因、時間帯の把握、それに対する省エネ・節電対策についてアドバイスを行います。

■問合せ 堺市環境エネルギー課

TEL:072-228-7548 FAX:072-228-7063

○堺市女性雇用促進等職場環境整備支援事業補助金

女性の職域拡大や働きやすい職場づくりを推進するために、職場における労働環境の改善に取り組む市内中小企業等に対して整備費用の一部を補助します。

■対象者

次のいずれにも該当するもの。

1. 市内で1年以上事業を営み、常時雇用する労働者数が300人以下である法人又は個人
2. 補助金交付申請年度又はその前年度に雇用推進課が実施する女性活躍推進のための事業に参加した、又は参加を予定している法人又は個人
3. 補助金交付申請年度に、補助事業を実施する事業所において、常時雇用する女性労働者数を10%以上増やす採用を行った、採用を予定している、又は翌年度の4月1日採用を予定している法人又は個人

■補助金額 補助対象経費の1/2以内(上限100万円)

■補助対象

1. 女性用施設(トイレ、シャワールーム、更衣室、休憩室)の整備に要する工事
2. 1の施設に必要な備品及び女性の就労に際しての安全対策に要する備品の購入

■募集期間 平成29年6月1日～平成30年3月31日(予定。ただし、予算額に達し次第、終了)

■問合せ 堺市雇用推進課

TEL:072-228-7404 FAX:072-228-8816

中小企業を
全力応援

公益財団法人
堺市産業振興センター

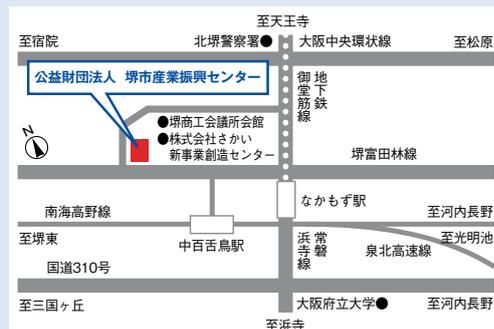
堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5

TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200

http://www.sakai-ipc.jp/



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m◎地下鉄御堂筋線なかみず駅より約300m※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。



さ
か
い



語
り

全国各地の素材が生きるクッキー

「旅するイリゼ」とネーミングされた、全国各地の特産品を使ったクッキーと堺の注染の手ぬぐいをセットした商品や堺の老舗茶舗のお茶が、関西国際空港第1ターミナルビル3階にある食のセレクトショップ「Region Style」で外国人観光客の人気を集めています。今後はこれら3点をセットにした販売も考えられているとか。開発したのは、株式会社グランディユー。小笠原恭子社長は「空港で販売することが決まっていたので、外国人観光客を意識して、パッケージのデザインは日本らしいものと決めていました。デザイナーさんと相談して和装の女性にしたんです」と語っています。「旅するイリゼ」は全6種類。大阪のイチジクや長野のクルマ、福島の黄桃、京都の抹茶、高知のユズ、兵庫丹波の黒豆が使われています。全国各地の素材を取り入れているのは、小笠原社長がグランディユーを設立した経緯に関係します。「障害の

ある人やニート・引きこもりの雇用支援を行いたいと会社を立ち上げ、就労の場の一つとして、こうした焼き菓子の製造を行っています。商品名に“旅する”を入れたように、各地の素材を使うことでこの活動が全国に広がって、それぞれの地域で就労の場が生まれてくれることを願っています。「旅するイリゼ」は、けやき通りにあるカフェ「メゾン・ド・イリゼ」でも求めることができます。



◀障害のある人やニート・引きこもりの人たちが就労の場であるとともに、多くの方と広く交流できる場になればという小笠原社長の願いが込められているカフェ「メゾン・ド・イリゼ」。「ここは通過点であり、ここから本当に自分のやりたいフィールドへ飛び出してくれたら」と小笠原社長は語っています。

株式会社グランディユー



小笠原恭子社長

料理菓子専門学校「ル・コルドン・ブルー」でフランス菓子作りを学んだ小笠原社長が、卒業後に開いたお菓子教室で障害のある方たちとの出会いがあり、やる気はあっても就労の場がないことに疑問を抱いたといいます。その後、障害者教育の研究のため、大阪市立大学大学院に入学。2014年に株式会社グランディユーを設立しました。障害者手帳を持っているか否かに関係なく活動に参加できるよう、株式会社としてカフェ事業のほか、国

立循環器病研究センターの「かるしおレンジ」に基づいた塩分とカロリー控えめのお弁当やフランス菓子を製造するセントラルキッチン、「地域活動支援センターぜるこば」の運営を行っています。

●本社／堺市堺区榎元町6-6-4 ☎072-229-7430
http://grandeur-jp.com

